



萌 木

～自尊・立志・感動～

12月



調布市立第七中学校

校長 山田 勝

令和6年12月20日発行

コミュニケーションツールを上手に活用するための成長

校長 山田 勝

12月は、調布市が市独自の取り組みとして定めている「いのちと心の教育月間」です。日ごろから大切にしている自他の生命を尊重する心や、より深い生命に対する畏敬の念を育てる機会とすることを目的にしています。18日には生命尊重を題材とした道徳授業の公開を行いました。12月という1年の締めくくりのこの時期に、お互いの生命を慈しむ機会を経て、年越しなどの年中行事に臨むための大事な取り組みです。その中でSNSなどを介したトラブルに中高生も巻き込まれる危険が身近にある今、ツールとして私たちが使いこなすために必要なことを考えてほしいと思い、全校朝礼で話しました。

【前略】そのようなみなさんの未来について考えるとき、みなさんの少し上の世代が直面している課題が気になり、そのことを今日はお話しして一緒に考えてもらいたいと思います。その課題とは、SNSを含めた電子機器端末の利用についてです。

闇バイトにかかる端末の利用法や、SNSを通した個人情報の流出など、自分や周りの人を大きく傷つけ、場合によっては命まで危険にさらされるような事案の報道がありました。

そのような中で、オーストラリアでは15歳未満のSNSを制限するなどの報道もあり、コミュニケーションツールの利用について、ただ気を付けよう、というだけでこの情報過多社会で生きていくことは課題が多くあるのかと思います。

ここでコミュニケーションツールの利用について考えを進めます。

昨晚、NHK大河ドラマ「光る君へ」を見ました。ここでは、吉高由里子さんが演じる紫式部という作者が源氏物語を書くことを描いています。この源氏物語という作品を通し、読み手の心に、特に天皇に気持ちを届ける様子がありました。このように平安時代はまさしく言葉が人と人を結ぶ大切なツールとして使われていました。言葉をつなぐ紙が貴重な品であったことも描かれていました。

時代は進み、テレビなどが発達した中で、アニメがいろいろなものを伝える手段となった時期もあります。スラムダンクを見てバスケット、キャプテン翼を見てサッカーにと、スポーツに打ち込むきっかけになった人も多かったと思います。

言葉もアニメも登場した当初からすぐに社会になじんだわけではありません。アニメなども登場当初は学校で見ることを禁止していた時もありましたが、作品が成熟するにつれ教科書にも取り入れられるなど受け入れられてきています。

さて、現在SNSは人と人をつなぐツールの重要な位置を占めていますが、まだ未成熟な段階で、この状況の中で使用すると詐欺や強盗などの犯罪につながる恐れもあります。

学校の仲間内だけの情報共有のつもりであっても、ひとたびエンターキーを押した情報は全世界に飛び出す可能性があるのが現在のコミュニケーションツールです。

だからといって使わないままこれからの生活を進めていくことはできませんし、遠ざけるだけが問題回避とはならないこともわかっていることです。

社会とともに私たちがこのコミュニケーションツールである情報端末との付き合い方も成熟させていかなければなりません。それは、人から、周りから与えられるものではなく、自らが獲得していくものです。

トラブルや課題に直面した時、断る勇気、引き返す勇気そして周りを頼る勇気を持っていること、このことが便利だけど少し厄介なこのコミュニケーションツールを利用するときには、まだ必要な時期なのではないでしょうか。エンターキーを押すとき、もう一度そのことを意識してほしいと思います。